こんにちは市民病院です

病院を支える「医療機器のスペシャリスト」
臨床工学技士

皆さんは「臨床工学技士」という仕事をご存じですか？臨床工学技士は、医療機器を扱う専門職です。患者様の治療に使われる機器の操作や点検、管理を行い、安全で安心な医療を支えています。当院では現在、３人の臨床工学技士が勤務しています。少し聞き慣れない職種かもしれませんが、実は病院の中でさまざまな医療機器に関わり、患者様の命や治療を支えているとても重要な職種です。

当院の臨床工学技士の主な業務の一つが人工透析です。透析治療では、透析装置など多くの医療機器を使用します。私たちは治療前の機器の準備や点検、治療中の装置の管理などを行い、患者様が安心して治療を受けられるようサポートしています。

また、人工呼吸器の点検や、ペースメーカのチェックも行っています。医療機器が正常に作動しているかを確認するだけでなく、患者様の状態を見ながら、医師や看護師と連携して対応することも大切な仕事です。

臨床工学技士は「機械を扱う仕事」というイメージを持たれることが多いかもしれません。しかし、実際には患者様の治療を身近で支える医療スタッフの一員です。日々の業務では、機器の小さな変化や異常を見逃さないことを心掛けています。患者様にとって安全な医療環境をつくるため、日頃から機器の知識や技術を学び続けています。さらに、看護師を対象とした医療機器の教育・研修も行い、病院のスタッフが安全に機器を使用できるよう取り組んでいます。

普段はなかなかお会いする機会がないかもしれませんが、臨床工学技士は病院のさまざまな場面で活躍しています。これからも医療機器の専門知識と技術を生かし、多職種と力を合わせながら、地域の皆さんに安全で安心な医療を届けられるよう努めます。

現在、飛騨地域には20名余りの臨床工学技士が活躍していますが、まだまだ人材が不足しています。将来の進路を考えているお子さんやお孫さんにぜひともご紹介ください。



問 飛騨市民病院
TEL 0578-82-1150



そろそろ終活はじめませんか？

＜その80＞

最低限やっておきたいこと

「終活」は必要だとは思っているけど、実際に「終活」に取り組んでいるという人は、どのくらいいるのでしょうか。

多くの人は「いつ」「どこから」「どんな順で」手を付けたらいいのか分からないのが現状かもしれません。

そこで、遺族の立場になって、70歳を過ぎたら、もしもの時に備えて、最低限これだけはやっておいてほしいと思う「終活」をまとめてみました。

①お金に関係するものを整理する

銀行の通帳や印鑑、保険証書や不動産の権利証などは、１カ所にまとめておきましょう。また、できれば財産目録を作成し、預貯金や不動産、骨董や貴金属、自家用車など所有している全ての財産を一覧表にして整理しておきます。そこには、借金やローンなど、マイナスの財産についても記載します。

②身の回りのものを整理する

捨てることに抵抗があるという人は多いのですが、出来るだけ身軽になっておくことで、自分の今と、これからの生活が随分楽になります。何より、遺族になる人にとっても、大きな負担を軽くすることができます。整理の際は、処分することを迷うものは後回しにし、必要のないものは少しずつでも減らしていきましょう。また、どうしても処分することができない場合は、一部屋に集めておくなどして「自分がいなくなったら全部捨ててほしい」と誰かに伝えておく方法もあります。

③延命治療や告知について伝えておく

身体が重篤な状態になってからでは、本人も周りの人もつらいだけです。ぜひ健康寿命があるうちに、延命治療などについて家族や周りの人と話し合っておきましょう。

今回の内容は、あくまでも『必要最低限の終活』です。これらを行う一方で、ぜひ『自分にとっての終活』も考えてみてはいかがでしょうか。

終活フェア
11月28日(土) 10:00 ～ 15:00
神岡町コミュニティセンター
～詳細は市内回覧にて～

問 飛騨市終活支援センター
（飛騨市社会福祉協議会内）
TEL 0577-73-3214